

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02627

研究課題名（和文）後期啓蒙主義における『最新ドイツ文学精選叢書』の学術・書評誌としての意義

研究課題名（英文）The importance of the "Auserlesene Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur" (1772-81) as a scholarly journal of German Enlightenment

研究代表者

クラヴィッター アルネ (Klawitter, Arne)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：90444778

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：ドイツ啓蒙主義の雑誌「最新ドイツ文学精選叢書」（1772-1781）が美学と批評の面で先進的な役割を果たしたと実証した。これまで知られていなかった約40人の寄稿者の名前を特定し、彼らの書評や論文を詳細に調べることで、近年ますます国際的な研究の関心を集めるディーツ、ウンザー、モヴィヨンの失われた出版物を発見できた。18世紀の哲学者・作家の著作を総合的に解釈し、注釈を加えた「Work Profiles」叢書（独de Gruyter出版）から、2022年にモヴィヨンとアンツァーの著作集を出版した。今後、モヴィヨンやディーツの著作集も出版され、この研究の国際的反響が高まることが予期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

啓蒙主義の重要な書評誌『最新ドイツ文学精選叢書』をめぐる知的ネットワークが、国際的研究の注目されることとなった。研究プロジェクトの可視性を高めるために、研究成果を名の通った専門誌に論文として発表するとともに、『最新ドイツ文学精選叢書』執筆者たちの作品集や書簡集を編纂出版した。これによって、文学史および哲学史において「忘却」されがちだった急進啓蒙主義者に、いっそうの注意が向けられる。彼らはなおも、啓蒙主義研究において解明が待たれている存在なのだ。このプロジェクトからは数々の出版物が生まれ、この分野の専門誌に発表した結果、私はドイツ科学アカデミーから当該領域プロジェクトの学術審査員に選出された。

研究成果の概要（英文）：The project examined the importance of the "Auserlesene Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur" (1772-1781), and highlighted its role as a leading journal of German Enlightenment, unique in its concept and progressive in terms of aesthetics and critique. In my research, I was able to identify about forty of its formerly unknown collaborators, and by studying their reviews and treatises in detail, to discover lost publications of H. F. Diez, L. A. Unzer and J. Mauvillon who, during the last years, became more and more the focus of international research. The series "Work profiles" which presents interpretations and annotated editions of comprehensive works by individual philosophers and writers of the 18th centuries, published editions of Mauvillon and Unzer in 2022; other editions of Mauvillon and Diez will follow in the coming years to increase the international resonance of this research.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：ドイツ文学 啓蒙主義 雑誌文化

### 1. 研究開始当初の背景

学術ジャーナルや雑誌なくして 18 世紀の文学は考えられない。というのも、それらがつくり出した公共性は、増大する読者に対してアクチュアルな知の在庫を卸して見せ、種々さまざまなあたらしい情報を伝え、彼らが批判的な言論に参加することを可能にしたからだ。それらはどれもひとしく、学術的手法の創出、コントロール、制度化をおこない、「文学」に関して、読者の趣味の発展へ際立った影響をおよぼした。このことは、文学史研究にとって、とりわけ歴史区分や美的革命の観点で興味深いものでありうるだろう。

18 世紀半ばに文学ジャーナルや学術誌がますます道徳週刊誌を駆逐し、大量の批評誌が短期間にますます急速に増加したとき、これらの雑誌とともに生じた学術的なコミュニケーションの情報量は、当時の文筆家や学者たちにとって巨大なものであった。しかし、これまで雑誌研究において、啓蒙主義の最重要な書評誌として調査されていたのは『一般ドイツ叢書 (Allgemeine deutsche Bibliothek)』と『フランクフルト教養報知 (Frankfurter gelehrte Anzeigen)』の最初の 2 巻のみであった。それも、後者について調査がなされたのは、その 2 巻にたまたまゲーテが参加していたがためだった。『最新ドイツ文学精選叢書 (Auserlesene Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur)』とその特異な構想については研究がそもそも存在しなかった。

### 2. 研究の目的

研究の目標は、革新的な構想をもった『最新ドイツ文学精選叢書』の、啓蒙主義の重要な書評機関としての意義を明るみに出し、今まで知られていなかったその匿名の寄稿者たちの本名を突き止めることだった。これにより、一方では、この雑誌の文学史的な位置づけおよび評価をおこなえるようになり、また他方ではそれらの評論や論文の内容に取り組むことで、重要な文学作品の受容研究にあたらしい刺激が与えられることが期待された。その際、評論の内容は評価・検討され、ドイツ文学のうちのいくつかの著作、わけても疾風怒濤期およびヘルダーやカントの文脈における啓蒙主義の哲学的著作の受容史が、どの程度再検討を要するか、調査されることになった。同時に、この雑誌の「プロフィール」を、18 世紀の啓蒙された教養人たちのネットワークにおいて明らかにすることが問題だった。雑誌の個々の著者たちについての集中的な取り組みの中では、おのずから、雑誌の綱領や特定の興味関心、評論や寄稿の様式および他の雑誌からの借用などについての多くの知見が得られた。こうした理由から、調査は文学のテキストに限定しておこなわれた。

### 3. 研究の方法

研究方法としては、新発見を目指した資料研究と批判的文献学を用いることを第一とした。長年にわたる図書館およびアーカイブでの仕事において、『最新ドイツ文学精選叢書』誌を研究し、執筆者に関する手がかりを探し、他の雑誌との横のつながりを調べ、問題となる執筆者の往復書簡を調査した。その際には、デジタル化やデジタルデータ分析などあたらしい技術を取り入れることができた。研究計画の実行のためには、多くの歴史的資料(雑誌の記事、書簡、歴史的な記録、および文学作品も含む)を収集することが不可欠であった。こうした理由により、ドイツ各地の図書館などアーカイブでの資料収集を目的とした度重なる出張は絶対に必要であった。

### 4. 研究成果

研究の結果、約 40 の、これまで知られていなかった匿名著者たちの本名を突き止め、その論文

や評論の内容に取り組み研究するための用意を整えることができた。文学や哲学についてのほとんどの記事を執筆したモヴィヨン(Jakob Mauvillon)やヒスマン(Michael Hissman)のほか、ヘルダー、ドーム、クロイカー、アイヒホルンやシュレッツァーらよく知られた文筆家たちが雑誌に参加しており、そのことが雑誌の評判を明らかに高めていたということを示すことができた。わたしの研究はまずに、ゲーテ、レッシング、ヴィーラント、クロップシュトックやレンツといったドイツ文学史に残る重要な作家たちへの書評の内容を評価・検討することに集中した。その際とりわけ『最新ドイツ文学精選叢書』誌においては 疾風怒濤期の初期の作品がきわめて詳細に、また このことはこの時代における例外をなしているのだが きわめて肯定的に評されていたことが示された。これもまた、この雑誌の歴史的な特異性と重要性を強調するものである。

重要なのは、ゲーテ、メルク、ヴァーグナーや(限定的には)レンツが著者として加わった『フランクフルト教養報(Frankfurter gelehrten Anzeigen)』とはちがひ、『最新ドイツ文学精選叢書』はシュトゥルム・ウント・ドラックの宣伝役ではなかったにもかかわらず、ゲーテやレンツのスクランダラスな作品にきわめて肯定的に反応したということだ。このことは、この雑誌にまったくあたらしい光を投げかけるものであり、この雑誌を今日の文学研究にとって重要なものとしている。

さらに、この雑誌の寄稿者たちについての取り組みにおいては、この雑誌で自由思想的な作者が活動し、その進歩的見解を匿名で発表することができたということが発見することができた。このことは、これらの寄稿者たちのうち幾人かがのちにプロイセンの外交職に就いたり(ドームやディーツのように)、ドームのように、のちにフンボルト兄弟の家庭教師となったりした者もいるように、文化史的にも重要である。この雑誌は自由思想の胚細胞であったというだけではなく、レムゴのヘルヴィング、これもわたしが同様に発見しえたのだが、数多の自由思想的著作を匿名で刊行していたヘルヴィングとの接触をも可能にしたのだった。わたしの研究のたいへん重要な成果として、これら行方不明とみなされていた著作のうちのいくつかを、わたしはアーカイヴにおいて再び発見し得たこと、また論文において詳細に評価・検討する一方、新しく編集して出版し公共の用に供したことが挙げられる。すでに2018年にはH. F. ディーツの論文と評論集を刊行し、その中で、この作者の行方不明とされていた二つのテキストを研究成果として発表することができた。加えて、ウンツァー(Ludwig August Unzer)の行方不明となっていた宗教哲学的著作については、その唯一現存する一冊をコペンハーゲンの王立図書館で発見することができ、専門誌において公刊するに至った(2021)。

2019年にはドイツにおいて、雑誌の最も重要な共著者のひとりであるモヴィヨンについての学会を開催し、2022年には成果論集をde Gruyter社から出版することができた。その際にはKevin Hilliard(オックスフォード大学)とともに、あたらしい発見を紹介し、モヴィヨンのこれまで知られていなかった二つの著作を発表することでできた。これらの重要な研究成果と数多の出版物にもかかわらず、ドイツの急進啓蒙主義者としてのモヴィヨンに取り組むこと謳った科研の継続課題申請は、このためにオックスフォード大学の著名な研究者Hilliardを研究協力者として獲得できていたにもかかわらず、残念ながら日本学術振興会によって不採択とされた。これによって研究の継続が大いに脅かされてしまった。今後さらなる発見が期待される中で、あたらしい発見をJSPSの研究プロジェクトの一環として発表することができたならば、それは日本の研究の成果として世界に誇り得ただろうに。

デ・グロイター社の『作品プロフィール(Werkprofile)』シリーズの中で、近々『最新ドイツ文学精選叢書』の著者たちのさらなる校訂版が出版される計画である。2022年にはウンツァーと

モヴィヨンの往復書簡が刊行される見通しである。これは出版者ヘルヴィングが匿名で刊行した、『最新ドイツ文学精選叢書』と平行する企画である（現在印刷中、2022年8月出版予定）。また2024年までにはモヴィヨンの最も重要な論文や評論およびその500通を超える全往復書簡が、さらにゲーテのアドバイザーとしても知られる司法家・外交官H. F. ディーツの往復書簡が刊行される見通しである。

文学にとって最も重要な評論家についていえば、著者間での分業がどのように行われていたか、誰がどの類の本を上位に据えたか、筆者たちの寄稿が内容的、様式的にそれぞれどのようにちがっているか、誰がどのような美的な立場を代表していたか、等々を明らかにすることができた。重要な文学作品に対する評論のこれまで知られていなかった著者がこうして探し当てられたことで、受容研究にあたらしい刺激が与えられることとなった。直近2年間には、たとえば『ドイツ批評マガジン(Magazin der deutschen Critik)』や『新アルトナ教養メルクーア(Neue Altonaer gelehrte Mercurius)』といった、『最新ドイツ文学精選叢書』と似たような立ち位置や意義をもつ他の雑誌へと研究を拡大した。ここでも、受容研究に対するあたらしい知見が獲得された。たとえば、『新アルトナ教養メルクーア』の編者は、シュトゥルム・ウント・ドラングの作品についての約40の新刊告知や短評を提供していたが、これはこれまでの研究に知られていなかったことである。『新アルトナ教養メルクーア』が『ドイツクロニク(Deutsche Chronik)』(シューヴァルト)や『ヴァンズベッカー報知(Wandsbecker Bote)』(クラウディウス)などと同様、ただ一人の編者によってのみ取り仕切られていたため、その執筆者たちが誰であるか明らかにすることは困難ではなかった。しかしながら、ここ最近の研究においてまずもって重要なのは、数々の評論に基づいて、シュトゥルム・ウント・ドラングの作者であり3つの劇作品の執筆者である、これまでまったく知られていなかったひとりの人物を発見し、その名前を突き止めたことである。全体的に示されたことは、18、19世紀の学術誌や書評機関の、細部にまで忍耐をもっておこなわれた良心的研究が、文学研究や哲学史における多くのあたらしい発見を用意したことである。わたしが発見しえた、全部で8編の文学的および哲学的作品は、これまで研究に知られるところではなかったものであり、これらの作品が近い将来継続研究プロジェクトの枠組みの中で編集され公開されることが強く望まれる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 11
2. 論文標題 Die "Litteratur-Artikel in einem gewissen Lemgoer Journal" . Wieland, Mauvillon, Heinse und die Auserlesene Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Wieland-Studien	6. 最初と最後の頁 137-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 21/2
2. 論文標題 Konzeption und Funktion der chinesischen Gartenkunst in der deutschen Literatur der Empfindsamkeit und Spaetaufklaeung	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Literaturstrasse. Chinesisch-deutsche Zeitschrift fuer Sprach- und Literaturwissenschaft	6. 最初と最後の頁 181-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 15
2. 論文標題 Herders problematische Beziehung zur Auserlesenen Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur (1772-1781) im Lichte ihrer Rezensenten	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Herder Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 45/1
2. 論文標題 Vermaechtnisse fuer Freigeister. Die religionsphilosophischen Bekenntnisse des Dichters Ludwig August Unser	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Das 18. Jahrhundert	6. 最初と最後の頁 84-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 43/1
2. 論文標題 "... aber andern will und muss er unbekannt bleiben." Ueber das Programm der Philosophischen Abhandlung von einigen Ursachen des Verfalls der Religion (1773) und ihren bislang unbekanntem Verfasser	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Das 18. Jahrhundert	6. 最初と最後の頁 11-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 10/1
2. 論文標題 Exotische Naenien. Der vergaengliche Zauber ferner Laender in deutschsprachigen Dichtungen des 18. und fruehen 19. Jahrhunderts	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Zeitschrift fuer interkulturelle Germanistik	6. 最初と最後の頁 27-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 XLVI
2. 論文標題 "Sehnsucht nach Italien." Ludwig August Unzers sensualisiertes Dichterland	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Lessing Yearbook	6. 最初と最後の頁 135-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 26
2. 論文標題 Von der Geschichte zur Person. Zur Erzaehlstrategie und Fokalisierung in Uwe Johnsons Jahrestagen	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Johnson Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 179-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 13/2
2. 論文標題 Vermaechtnisse fuer Zweifler. Ludwig August Unzers religionsphilosophische Bekenntnisse und ihre Naehe zum Denken Nietzsches	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Zeitschrift fuer Kulturphilosophie	6. 最初と最後の頁 133-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 1
2. 論文標題 Max Dauthendeys Idee von der "bewegten Rahmenlosigkeit" der japanischen "plastischen" Buehne	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Wohnen und Unterwegssein. Interdisziplinaere Perspektiven auf west-oestliche Raumfigurationen, hg. von Mechthild Duppel-Takayama, Wakiko Kobayashi und Thomas Pekar, Bielefeld: Transkript	6. 最初と最後の頁 69-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 134
2. 論文標題 Die aesthetische Resonanz sino-japanischer Schriftzeichen in der deutschsprachigen Literatur zu Beginn des 20. Jahrhunderts	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Literaturtheorien in der Anwendung. Studienreihe der Japanischen Gesellschaft fuer Germanistik	6. 最初と最後の頁 4-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 1
2. 論文標題 Desimagination. Entbildlichung in Blanchots Erzaehlprousa	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Blanchot und das Bild. Bilder und Begriffe nach Maurice Blanchot. Hg. von Barbara Filser und Kristin Marek, Paderborn: Fink	6. 最初と最後の頁 71-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 45/1
2. 論文標題 Problematische Autorschaft. Christian Friedrich Daniel Schubarts Kurzgefasstes Lehrbuch der schoenen Wissenschaften und seine ungleichen Herausgeber	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Internationales Archiv fuer Sozialgeschichte der deutschen Literatur (IASL)	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 1
2. 論文標題 Der Philosoph, Freigeist und Orientalist Heinrich Friedrich Diez im Spiegel bislang unbekannter frueher Schriften	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heinrich Friedrich von Diez (1751-1817). Freidenker Diplomat; Orientkenner. Hg. von Christoph Rauch und Gideon Stiening, Berlin: de Gruyter	6. 最初と最後の頁 133-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 1
2. 論文標題 Auserlesenheit als Alleinstellungsmerkmal. Die Auserlesene Bibliothek der neuesten deutschen Literatur (1772-1781) als Rezensionsorgan der Aufklaerung	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Wissen in Bewegung. Hg. von Katrin Loeffler, Stuttgart: Steiner	6. 最初と最後の頁 213-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 1
2. 論文標題 "Ein raetselhaftes Reich aus schwarzen Bildern." Zur aesthetischen Resonanz sino-japanischer Schriftzeichen in literarischen Texten um 1900	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 West-Oestliche Wahlverwandtschaft. Hans Bethge und die historischen und aesthetischen Konstellationen um 1900. Hg. von Gerhard Lauer und Yixu Lue	6. 最初と最後の頁 207-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 138
2. 論文標題 Rechtsgefuehl und Gewalteskalation in Kleists Michael Kohlhaas	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gefuehlsunordnungen. Heinrich von Kleist und die romantische Oekonomie von Affekten. Hg. von Thomas Pekar und Thomas Schwarz. Studienreihe der Japanischen Gesellschaft fuer Germanistik	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 112/1
2. 論文標題 Die Lemgoer Auserlesene Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur (1772-1781) und ihre allzu lange uebersehenen Mitarbeiter	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Euphorion	6. 最初と最後の頁 117-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 12/1
2. 論文標題 Heinrich Friedrich Diez als Freigeist und materialistischer Denker der Aufklaerung,	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Zeitschrift fuer Kulturphilosophie	6. 最初と最後の頁 177-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 43/2
2. 論文標題 Ein Freigeist "in Sachen des Genies" . Jakob Mauvillon als Kritiker von Goethe und Lenz	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Internationales Archiv fuer Sozialgeschichte der deutschen Literatur (IASL)	6. 最初と最後の頁 255-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 14
2. 論文標題 Michael Hissmanns Rezension zu Herders kunsttheoretischer Schrift Plastik. Eine Nachlese zur Wirkungsgeschichte	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Herder-Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 235-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 1
2. 論文標題 Der Punschapostel und der Naeniendichter. Die Dichterfreundschaft zwischen Friedrich Wilhelm Zacharae und Ludwig August Unzer	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cord-Friedrich Berghahn, Gerd Biegel, Till Kinzel (Hg.): Justus Friedrich Wilhelm Zachariae(1726-1777). Studien zu Leben und Werk,	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 0
2. 論文標題 Freigeisterei unter dem Schutzmantel der Anonymitaet. Ein Beitrag zur Biographie des preussischen Gesandten Heinrich Friedrich von Diez	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jahrbuch des Freien deutschen Hochstift	6. 最初と最後の頁 7-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arne Klawitter	4. 巻 41.1
2. 論文標題 Der sokratische Daemon als Wuergeengel der christlichen Religion " ? Ein bislang nicht ausgewerteter Brief Jakob Mauvillons an Michael Hissmann zum "Genius des Sokrates "	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Das 18. Jahrhundert	6. 最初と最後の頁 28-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Arne Klawitter
2. 発表標題 "Ein Freigeist in Sachen des Genies. Mauvillon als Literaturkritiker"
3. 学会等名 der Tagung "Jakob Mauvillon (1743-1794) und die deutschsprachige Radikalaufklärung" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Arne Klawitter
2. 発表標題 "Den biologischen Verfall vor den Augen der Welt darstellen. Der hygienisch-klimatologische Diskurs in Thomas Manns Der Tod in Venedig"
3. 学会等名 Workshop "Der Tod in Venedig im Schnittfeld der Diskurse. Textanalytische Beiträge zur interkulturellen Literaturvermittlung" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Arne Klawitter
2. 発表標題 "Weltliteratur und Weltpoesie um und nach 1800"
3. 学会等名 Asiatischen Germanisten-Tagung (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Arne Klawitter
2. 発表標題 "Fremde Schriftzeichen und ihre Resonanz in der deutschen Literatur der Jahrhundertwende um 1900"
3. 学会等名 Workshop "Eigen- und Fremdbilder in der Literatur, Film und Kunst" an der Universitaet Rostock mit Doktoranden der Waseda Universitaet (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Arne Klawitter
2. 発表標題 "Rechtgefuehl und Gewalteskalation in Kleists Michael Kohlhaas "
3. 学会等名 Symposium der JGG-Fruehjahrstagung "Gefuehlsunordnungen. Heinrich von Kleist und die romantische Oekonomie der Affekte "
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Arne Klawitter
2. 発表標題 Geniekult und Kraftsprache. Goethe und der Sturm und Drang in Rezensionen der Lemgoer "Auserlesenen Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur "
3. 学会等名 " Wissen in Bewegung: Gelehrte Journale, Debatten und Buchhandel im Zeitalter der Aufklaerung " Akademie der Wissenschaften zu Goettingen / Universitaetsbibliothek Leipzig, ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Arne Klawitter
2. 発表標題 Freigeist, Philosoph und Rezensent: H. F. Diez als Verfasser einer bislang unbekanntes religionskritischen Abhandlung und als Mitarbeiter der Lemgoer Auserlesenen Bibliothek der neuesten deutschen Litteratur "
3. 学会等名 International Symposium von Heinrich Friedrich von Diez, Staatsbibliothek zu Berlin, 7. und 8. September 2017 ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

〔 図書 〕 計1件

1. 著者名 Arne Klawitter (ed.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Koenigshausen u. Neumann	5. 総ページ数 236
3. 書名 Heinrich Friedrich Diez: Philosophische Abhandlungen, Rezensionen und unveroefentlichte Briefe (1773-1784).	

〔 産業財産権 〕

〔 その他 〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------